

「教育臨床総合研究21 2022研究」

令和3年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on the “Basic Experience Area” in 2021

田中英也**

Hideya TANAKA

上代裕一**

Yuichi JOUDAI

川路澄人***

Sumito KAWAJI

橋津健一*

Kenichi HASHIZU

長岡美沙**

Misa NAGAOKA

要旨

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染拡大状況（以下、コロナ禍）において、令和3年4月下旬から12月の期間、学外での基礎体験活動（宿泊を伴う体験活動を除く）を再開することができた。しかし、令和4年1月からはコロナ禍拡大により、年度内の活動が中止となり、教育支援センターでは臨機応変な対応が必要となった。コロナ対策の指導を十分に行いながら事業所との協力のもと、多くの基礎体験活動を実施する一方、オンラインでの活動も充実させ、大学生に学びの機会を保証してきた。また、島根・鳥取両県における高校生への未来の教師を育成するプロジェクトに対しても基礎体験活動を絡めながら開催してきた。

〔キーワード〕 基礎体験活動 コロナ対応 教職志向性向上 教育支援センター

I はじめに

1000時間体験学修は、1000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、「基礎体験領域」、「学校教育体験領域」の2つの領域で構成される。2つの領域における時間数の内訳は、「基礎体験領域」の「必修」が100時間、「選択必修」が540時間、「学校教育体験領域」が360時間となっている。

令和3年度の「基礎体験領域」、「選択必修」における基礎体験活動は、令和2年2月頃から拡大した新型コロナウイルスの感染により、およそ2年間にわたり大きな影響を受け、令和4年3月現在もその影響下にある。ウイルスの感染状況が変化中、本学部が所在する島根県、隣県の鳥取県は全国的に見て感染者数の少ない県であるため、令和3年4月下旬から大学での対面授業再開を機に、学外での基礎体験活動を再開することとなった。しかし、「新型コロナウイルス感染症に係る島根大学行動指針」及び「新型コロナウイルスの感染拡大防止に関する留意事項について」に基づき、宿泊を伴う基礎体験活動は昨年度に続き中止せざるを得ない状況であった。

*元 島根大学教育学部附属教育支援センター

**島根大学教育学部附属教育支援センター

***島根大学教育学部小学校教育専攻（元 附属教育支援センター長）

【表1】 令和3年度の教育支援センターの活動

月日	教育支援センターの活動と新型コロナウイルス感染拡大への対応	関連項目
4月	令和3年度前期の講義は第1週目(4/15~20)をオンライン授業で実施、4/21より対面での授業が開始。併せて基礎体験活動(宿泊を伴うものを除く)も再開	
4/24・25	入門期セミナー(1年生)の開催(2日間に分けての分散開催)	II-1-(4)②
6月	地域理解セミナー(1年生)の中止	II-1-(4)①
6/21~	鳥取県「未来の教師育成プロジェクト」開始	II-1-(3)③
6/23	2・3年生基礎体験交流会の開催(3回に分けての分散開催)	II-1-(4)③
7/10~	鳥根県 高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」開始	II-1-(3)②
9/2~9/30	新型コロナウイルス感染拡大により、鳥取県側での基礎体験活動の停止	
9/27	発展期セミナー(4年生)の開催(2回に分けての分散開催)	II-1-(4)①
9/28	充実期セミナー(2年生)の開催(2回に分けての分散開催)	II-1-(4)①
9/29	スタートアップセミナー(1年生)の開催(2回に分けての分散開催)	II-1-(4)①
12/1	応用期セミナー(3年生)の開催(第2体育館を使用しての開催)	II-1-(4)①
R4年1月	令和4年度入門期セミナー(新入生)の企画立案(宿泊なし、学内で実施)を開始	
1/11~	新型コロナウイルス感染拡大により、学外での基礎体験活動の停止	
2月	1・2年生基礎体験交流会の中止	II-1-(4)①
3/14	「鳥根大学行動指針」の4月における「段階2」を受け、対面での入門期セミナー(新入生)の中止を決定	
3/15	第2回基礎体験活動連絡会議及び令和4年度第1回基礎体験活動連絡会議・基礎体験合同説明会の中止について通知	II-3
オンラインで開催した基礎体験活動		II-1-(2)
<ul style="list-style-type: none"> ・「だんだん塾特別講義」(センター演習) ・「指導案づくり」(センター演習) ・「学校現場概論」(センター演習) ・「しまね大交流会」:11/6,7にオンラインで開催された「しまね大交流会」への参加 ・「キャリア教育演習」:就職支援室企画の4年生限定。これまでの人生をライフステージマップに記載とともに4年間の学びをレポートにまとめる活動 ・「数理データサイエンスへの誘い」のオンライン授業視聴 		
中止となったセミナー等		II-3
「地域理解セミナー」,「第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会」,「第2回基礎体験活動連絡会議」,「1・2年生対象基礎体験交流会」,「スクール・インターンシップ」		

基礎体験活動には大別して教育支援センターが開催する必修の「基礎体験セミナー等」、学外の事業所において開催される「体験活動」、専攻単位で行われる「専攻別体験・演習」の3つがあるが、今回のコロナ禍において、昨年度から新たにオンラインを活用した体験活動(「センター演習」と呼ぶ)を実施することとなった。令和2年度には中止せざるを得なかった

多くの「基礎体験セミナー等」を、今年度はコロナ禍の状況に応じて、感染防止対策を万全に行なった上で実施することができた。同様に令和4年1月のコロナ禍の再拡大までの期間には、たくさんの学外での体験活動に学生を送り出すことができた。また、オンラインでの「センター演習」には4年生を中心に多くの学生がエントリーして体験時間数を重ねることができた。一方で、島根・鳥取両県から派遣されている教育支援センターの教員は高大接続事業として、山陰教師教育コンソーシアムのもと、高校生の教職志向を高め、教員をめざしてもらうためのプロジェクトを着実に進めてきた。

教育支援センターの現状としては、昨年度の論文「令和2年度の基礎体験領域の取り組みについて」において「基礎体験活動は、教育学部のカリキュラムの中で最も影響を受けたものの一つと言える。(中略)新型コロナウイルスとの相性は最悪といって良いであろう。」と述べたが、その状況が継続する中、センター教員たちは過去のセンター運営とは全く異なる対応を模索してきたのである。本論文はこうしたコロナ禍であっても、学生に学びの場を提供したいというセンター教員の熱意と努力、そして卒業要件でもある時間数を重ねさせるための工夫の軌跡を記録に残すとともに、今後の基礎体験活動の可能性について検討するものである。

Ⅱ 令和3年度の取り組み

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動の参加実績（専攻別体験等を除く）

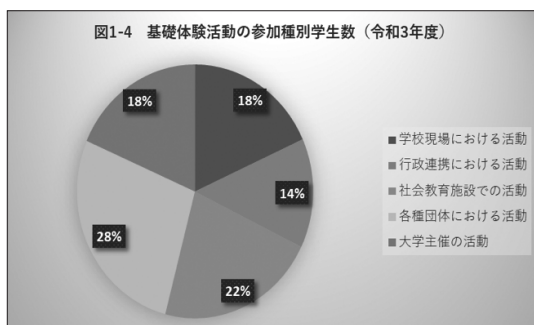
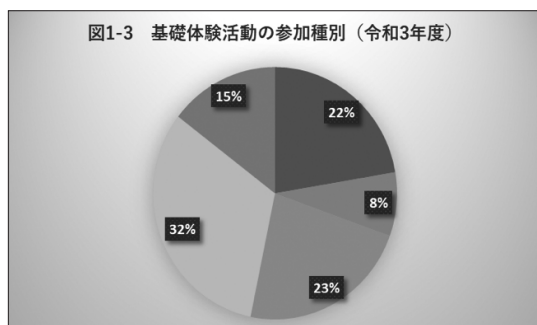
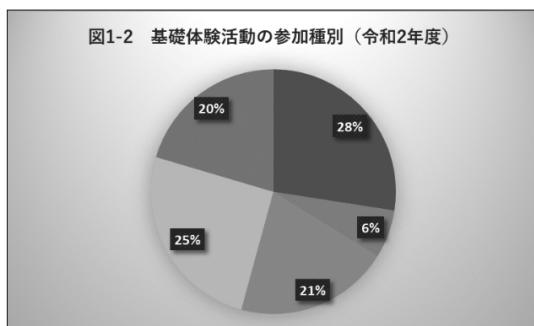
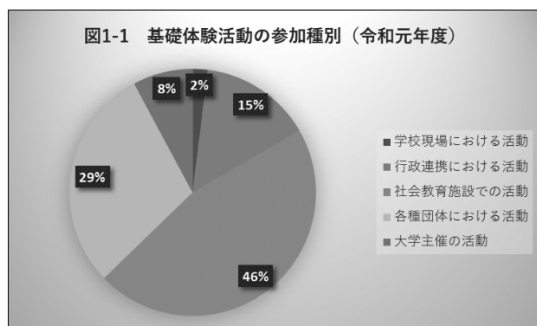
平成16年度改組により基礎体験活動を卒業要件とするようになって以降、過去10年間の実績は、【表2】に示すとおり、平成22年頃から参加学生延べ数が2,300名前後で推移していたが、平成29年度から2,000名を割り込んだ。これは、平成29年度から入学者数を2割程度削減（募集定員170名→130名）したことが要因である。一方で、今年度は昨年度に引き続き、コロナ禍の影響（1月17日から基礎体験活動停止、各種活動の中止・中断等）により活動募集が233件と例年（コロナ禍以前）と比べて低かったにも関わらず、学生参加延べ数が1,691名になった点は、大きな成果と言える。これは昨年度から新型コロナウイルス対応として開設した「センター演習」や学生の教職志向性向上のために企画した「学校現場における体験活動」への参加者数が増えたことが大きく影響していると考えられる。さらに、例年よりもこれまで申し込みのなかった、新たな事業所からの基礎体験活動の申し込みが増えたことも影響していると思える。

令和元年度（コロナ禍以前のデータとして）と、昨年度及び今年度（コロナ禍のデータとして）の体験活動の参加種別を割合【図1-1, 1-2, 1-3】で示すと、令和元年度は青少年教育施設を中心とする社会教育施設での活動への参加が多い。続いて各種団体における活動、行政連携における活動が占めている。これらの活動は、土・日曜日もしくは夕方等の放課後に行われる活動が多く、バス等での輸送手段が準備されているものや、宿泊を伴い大人数で募集されている活動は、学生にとって参加しやすく、経験・時間数も多く積めるため参加者は多くなる状況にあった。

しかし、昨年度からコロナ禍にあり、バスでの大人数の輸送が制限され、宿泊を伴う活動については停止となったため、社会教育施設での活動は減少せざるを得なかった。逆に昨年度から割合が増加したものは、学校現場における活動と大学主催の活動である。学校現場における活動については、具体的には松江市小学校長会主催の市内公立小学校での学習支援活動や鳥取

【表2】 基礎体験活動への参加実績（過去10年間）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
受入団体数（団体）	266	244	206	181	184	183	192	188	93	133
募集活動数（件）	508	496	443	392	391	387	379	358	160	233
学生参加活動数（件）	348	370	253	323	337	327	319	303	147	203
参加学生延べ数（名）	2,292	2,469	2,396	2,223	2,305	1,818	1,913	1,985	1,554	1,691



県内公立小・中学校での学習支援活動が主として挙げられる。これらは、本学部の喫緊の課題である「学生の教職離れの解消」＝「教職志向性の向上」の取り組みの一つとして各団体関係者と連携して進めた結果と捉える。また、大学主催の活動が増加しているのは、後述の「センター演習」が大きく関係している。参加種別学生数（累計）の割合【図1-4】から見ると、昨年度から引き続くコロナ禍の中、基礎体験活動を運営・実施することに苦心したが、以前からの課題（同じ種類もしくは同じ事業主での活動のみに偏って参加している学生が多数いること）であった活動の偏りについて、バランスの平準化が図れたことは今年度の成果と言えるだろう。今後も「基礎体験活動参加にあたっての新型コ

基礎体験活動参加にあたっての新型コロナウイルス感染予防ガイドライン

本ガイドラインは、基礎体験活動参加にあたって受入先関係者及び学生への新型コロナウイルス感染を予防するために策定したものです。活動に参加する学生は、以下の項目内容に留意し行動・対応してください。

- 活動の14日前から無断欠席し（スケジュール帳やカレンダー等に記録する）、風邪症状の有無を確認するとともに、感染リスクの高い場所（高校大学IP「感染リスクが高まる5つの場面」参照）へ行く機会を減らす。
- 3.7.5度以上の発熱が認められた場合は活動に参加せず、次のおとり必ず3カ所に各方法で状況を連絡する。

連絡先	連絡方法
(1) 基礎体験活動受入先	電話にて
(2) 教育支援センター担当教員	メールにて
(3) 学生支援課【平日】or 守衛室【休日・夜間】	電話にて【0852-32-9164】 Web入力にて【0852-32-6100】
- 3.7.5度以上の発熱がない場合であっても、風邪症状や体調不具合（倦怠感や息苦しさ等）を感じる場合は活動に参加せず、2.と同様の対応を取る。
- 目眩から十分な補給や栄養バランスのとれた規則正しい食事を中心に心がける。
- 3つの密（密閉、密集、密接）を避ける（活動中の食事の際には、1メートル間隔を確保し、食器を協力して一方向を向いで食べると感染防止対策を講じる）。
- 活動前後に手洗い・うがい必ず行い、活動中はマスクを着用し咳エチケットを徹底する。
- 友人や家族等の感染が確認される場合や、本人が濃厚接触者に特定された場合は参加を自粛せよ。2.と同様の対応を取る。
- 活動中は受入先である事業所の感染対策の指示に従い、活動中に発熱の風邪症状やその他の体調不良がみられる場合には、2.と同様の対応を取る。ただし、(1)基礎体験活動受入先にはその場で状況を伝え、速やかに帰還する。
- 県外に移動する場合は、事前申請および帰県後の報告と指導教員への連絡が必要となる（申請については教育支援センターIP参照）。

以上の項目内容に留意し、行動・対応いたします。
記入日 令和 年 月 日
署名 ()

令和2年7月10日施行
令和4年1月12日改訂
附属教育支援センター

【資料1】 基礎体験活動参加にあたっての新型コロナウイルス感染予防ガイドライン

「新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」【資料1】等に基づき、新型コロナウイルス対策をより適切に講じた上で、各受入先との連携をより密にしながら、学生の教師力と教職志向性を高めていきたい。

(2) コロナ禍における教育支援センター演習

今年度も昨年度同様に「センター演習」として以下の3つの演習を開設し、内容の拡充や運用方法の改善を図りながら取り組みを進めた。

ア だんだん塾特別講義

これまでのだんだん塾講演会を収めた動画（YouTube）等を視聴しレポートを作成する。

イ 指導案づくり

「学級活動」「総合的な学習の時間」「生活科」「特別な教科 道徳」から選び、指導案を作成する。

ウ 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」

45分間程度、学校現場経験者と語り合うことで、学校現場で求められている力や教職の魅力、学校現場の課題、学級経営のノウハウ、生徒指導、保護者対応等について学ぶ。終了後、レポートを作成し、提出する。

1) 内容の拡充について

アについては、今年度に入り新たに後述する9つの講演テーマを加えることができた。従来の「だんだん塾講演会」を収めた動画7本（【表7】参照）以外にも、教育支援センター教員等で作成した動画2本（【表3】参照）が加わったことが、今年度の大きな特徴として挙げられる。

ウについては、【表4】のとおり、教職大学院や学部附属教師教育研究センターと連携し、対応可能な教員数を4名から11名に増やすことができた。そして、このことはポスター【資料2】を学内に掲示し、必修セミナーや学生指導の折に学生に伝えることで周知した。さらに、学生が提出する感想レポートを簡素化し、複数名による参加を呼び掛けることによって、学生にとって取り組みやすいものに改善した。

【基礎体験活動】センター演習 学校現場概論

学校現場経験者の 先生と語り合おう

主な内容

受講方法等

担当者一覧

学校現場経験者と語り合うことで、学校現場で求められている力や教職の魅力、学校現場の課題、学級経営のノウハウ、生徒指導、保護者対応などについて学び、教師力を高めることができます。

- ・ Moodle (令和3年度教育支援センター演習「学校現場概論」) から申し込みます。
- ・ 担当者一覧から興味を持った先生を選択し、直接連絡をとり日程調整します。
- ・ **1名でも複数名での申込みも可能です。**
- ・ 対面型やオンラインミーティング (約45分間) 等、希望に応じて行い、レポートを作成し提出します。(レポート形式: 450字以上) ※従来の1350字以上から変更になり、取り組みやすくなりました。
- ・ 基礎体験活動 (選択) として時間認定します。(認定時間は3時間～。※振り合った時間によって変わります。)

・ 原 広治 (教職大学院) ・ 船田 次郎 (教職大学院) ・ 三島 賢隆 (教職大学院) ・ 岡崎 茂 (教職大学院) ・ 齋藤 英明 (教職大学院) ・ 吉田 博幸 (教師教育研究センター) ・ 長岡 真己 (教師教育研究センター) ・ 橋津 健一 (教員支援センター) ・ 上代 裕一 (教員支援センター) ・ 田中 英也 (教員支援センター) ※ 〇 内は所属。

教育学部附属教育支援センター (教育学部棟141号室)

お問い合わせ E-mail aces@edu.shimane-u.ac.jp

電話 0852-32-9836

【資料2】学校現場概論ポスター

【表3】 教育支援センター教員等で作成した「だんだん塾講演会（動画）」

講演テーマ	講演者
めざせ！教職	教育支援センター 田中 英也 橋津 健一
社会人に向けてステップアップ！～就職活動に係る面接試験の接遇や教員採用試験に向けた基礎知識等から学ぶ～	教育支援センター 田中 英也 就職支援室 佐竹 易子

【表4】 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」担当者等一覧

担当者（所属）	これまでの勤務校等（主なジャンル）
上代 裕一（教員支援センター）	中学校（生徒指導，部活動）
山中 慎嗣（教員支援センター）	小学校，中学校（ふるさと教育，コミュニティスクール，学校経営）
田中 英也（教員支援センター）	小学校（児童理解，保護者対応，仲間づくり，教採に向けて，特別活動）
橋津 健一（教員支援センター）	小学校（不登校対応，コミュニティスクール）
原 広治（教職大学院）	小学校，特別支援学校（特別支援教育（子ども・保護者支援））
船田 次郎（教職大学院）	中学校（教科指導，学級経営，生徒指導，生徒会活動，部活動）
三島 賢隆（教職大学院）	特別支援学校（聴覚，知的，教育相談，特別支援教育コーディネーター）
岡崎 茂（教職大学院）	中学校（生徒指導，多職種連携，保護者対応）
齋藤 英明（教職大学院）	小学校，中学校，特別支援学校，義務教育学校（授業づくり，教育の魅力化，子ども・保護者支援（特別支援教育））
吉田 博幸（教師教育研究センター）	小学校（体育，学校経営）
長岡 素巳（教師教育研究センター）	中学校（生徒理解と集団づくり，社会科（中学校），公民科（高校））

2) 運用方法の改善について

メールによる感想レポートや指導案等の受け渡しの仕方を見直し，すべての対応をMoodle上で行うことにした。これにより，課題であった確認作業の負担が改善され，業務が円滑に進められるようになった。また，センター演習に係るすべてが一括管理されたことで，学生にとっても情報を把握することが容易になったのではないかと考えている。

3) 参加学生数について

各演習の参加学生延べ数は以下のとおりである。（令和4年3月13日現在）

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ア | だんだん塾特別講義動画視聴：223名【691名】 |
| イ | 指導案づくり：84名【49名】 |
| ウ | 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」：17名【39名】 |
| ※ | 【】内は昨年度の参加延べ人数 |

アとウについて，昨年度と比較し数の減少したのは，活動先へ出向いて行う従来の体験活動が一定期間再開されたことが関連していると推察できる。しかし，それにもかかわらず，これだけの実績があったことから，この演習が基礎体験活動の一環として広く学生に定着してきた

と考えられる。また、活動先へ出向いての基礎体験活動に対する不安をもっている学生に対して、学内や自宅において経験・時間等を積み上げるための手立てになったと考えている。一方、増加したイについては、主に卒業年次生が積極的に取り組んだことが要因であったと窺える。

今後はアの動画本数をさらに増加させるとともに、ウへの学生参加数増加に向けた手立てを模索していきたい。そして、コロナ禍に関わらず、学生の教師力を例年以上に高めていくことができるようにしたいと考える。以下、学生の感想から本演習の成果を示す。

学生の感想（一部抜粋）

「だんだん塾特別講義」感想レポートから

教師の仕事にはやりがい・魅力があるということを何度も授業で聞いたことがある。特に小さい子どもは短い間でも抜群に成長したり変化したりする様子を見ることができている。子どもがしっかりしていく様子や過程を間近で、それも話したり関わったりしていく中で感じられるのは、大きな喜びだと考える。子どもに頼りにしてもらうことは自分にとっても子どもにとっても、成長の過程として必要なことで重要である。互いに高め合っている環境であるのではないか。「共に成長」という言葉がキーワードだと思うが、互いに成長できる場、成長を見守ることができる場、成長をサポートできる場等、人間の成長にまつわるいろいろな要素が詰まっている環境が学校なのだなどと改めて考える機会となった。「成長」にここまで関連した仕事や活動の内容なのは学校が一番だと思うし、非常に興味深い環境であると感じた。

「学校現場経験者の先生と語り合おう」感想レポートから

今回は、長岡先生が実践された授業や、これまで作成された授業についての紹介等をお話しさせていただいた。実践された授業では、子どもたちの興味を引いているのを見ている自分でもわかり、今回の授業に関連する実物や動画等を活用し、子どもたちの学びを深めていたのが印象的であった。また、発問も子どもたちが答えやすいような発問が多く、子どもたちが授業で発表しやすいように助走をつける支援があった。これまで行った授業も、今回と同じように導入で興味を引き、そこから内容につなげていくという流れで行っていると感じた。長岡先生の授業を見てきて、資料（教材）をどうするかで授業は大きく変わってくると感じた。どういうものを使うかで、子どもの興味を引き、子どもの授業への取り組みが良くなると思うので、教師として授業を作成していく時には特に時間をかけて準備していきたい。また、長岡先生の授業はスライドを中心に進めてあったため、これからの時代はICTの活用も重要であると感じたので、それについての勉強もしていきたい。

(3) 山陰両県の教育委員会と連携した基礎体験活動の展開

1) 鳥取県東部地区小中学校母校等への支援活動 ～母校で経験を積みませんか～

本活動は学校現場で経験を積み、地元で教師をめざす学生を育成するための取り組みである。（【資料3】参照）特に鳥取県東部地区の小・中学校を中心に、出身学生がその母校等において、体験・学修を行った。

【資料3】 鳥取県東部地区小中学校母校等への支援活動実施要項

鳥取県東部地区小中学校母校等への支援活動実施要項

～母校で経験を積んでみませんか～

1 趣旨

- (1) 学校文化は各自治体や学校によっても違いがあり、附属学校以外にも様々な学校の状況があることを知ることは、学生にとって貴重な経験となる。
 - (2) 母校での支援活動を通して、改めて自身のふるさとを実感するとともに、小中学校時代の学びを教える立場として見つめ直し、教職に向かう意欲を高める。
 - (3) 児童生徒と年齢が近い強みを生かしながら学習面・生活面を支援し、その成長を児童生徒と共有する等して、児童生徒との共感力やコミュニケーション能力を醸成する。
- ※以上の趣旨のもと、東部教育局と東部地区の市町教育委員会とが連携し、学生の活動を支援する。

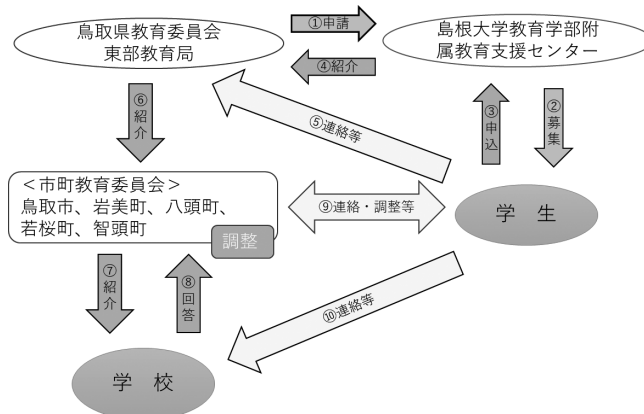
2 主催者等

～省略～

3 募集の手続き

- 鳥取県教育委員会東部教育局（以下教育局）は、島根大学教育学部附属教育支援センター（以下教育支援センター）へ①支援活動の申請を行う。
- 教育支援センターは、②学生に募集をかけ、③学生の申込を受けて、④教育局へ紹介する。（氏名、連絡先、住所等）
- 教育局は、⑤学生からの連絡を受け、⑥希望校等の確認をして各市町教育委員会へ紹介する。
- 市町教育委員会は、⑦学校へ紹介し、⑧学校からの回答を得て、⑨学生からの連絡に対応する。尚、事情により受け入れが難しい場合は、市町教育委員会内で調整し他校を紹介する等、学生と調整するとともに、教育局、大学の学生担当へ伝える。
- 学校は、⑩学生と連絡を取り合い、活動を実施する。

鳥取県東部地区小中学校母校等への支援活動募集フロー



以下、受け入れ先担当者のコメントと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

担当者のコメント（一部抜粋）

- 自ら希望して朝学活や給食指導等に参加し、生徒との交流を大切に活動されました。依頼した学年業務や採点業務には効率よく、そして誠実に取り組んでおられ大変助かりました。支援が必要な生徒に対して丁寧な個別指導をしてくださる等、教員としての適性もあると感じられましたので、ぜひ地域を支える教師になっていただけたらと思います。
- 短い期間ではあったが、自ら積極的に教職員や生徒にかかわり、多くのものを学ぼうとする姿がありました。現実に学ぶ謙虚さを忘れることなく、人間の幅をさらに広げ、すばらしい教師になってくれることを大いに期待しています。
- 教師をめざす熱意も強く、授業を支援していただいたときには、児童に丁寧に関わっていただきました。授業参観や行事に向けた練習の授業では、常に記録をとりながら自分の学びにつなげておられました。その姿勢に、これからの教師として頼もしさを感じました。

学生の感想（一部抜粋）

- 教育実習では見られなかった職員室での先生方の様子や雰囲気、部活動、公立中学校の授業を見ることができ、教師に対するイメージや自分がなりたい理想の教師像が少しずつ変化した実り多い3週間でした。子どもたちの生活環境や考えていることが様々で、自分の常識を当てはめてはいけないと再認識することができました。
- 今回の体験活動は、実際に学校にて授業観察や校務の手伝い、学習支援や特別な支援が必要である生徒との関わり等、現場でありとあらゆる教師の仕事に触れることができ、とても貴重な時間でした。特に、職員室に席をおいてもらって先生方の普段の会話を聞いたり、子どもと一対一で話したりする機会は、実習では触れることのできない部分だったので、大きな成果でした。
- それぞれのクラスで、朝礼や給食の時間、終礼の様子を観察したり、先生方がしておられる仕事をさせていただいたり、いろいろなことを経験させていただき、たくさんのことを学ぶことができました。先生方の生徒への指導の仕方、対応の仕方、学級経営の様子等、参考にさせていただき、自分に活かしていけるよう努力していきたいです。

2) 島根県「教育人材育成プロジェクト」の学生アドバイザー活動

山陰教師教育コンソーシアムのもと、島根県教育委員会と島根大学を核とし、「ふるさとで教員になる」学生の育成をめざす取り組みが今年度から始動した。拠点校となる高等学校は浜田高等学校と益田高等学校の2校である。(令和4年度には、大社高等学校と松江東高等学校が加わり、4校となる予定)その内、基礎体験活動として学生が関わった浜田高等学校を拠点とした4回の取り組みについて紹介する。(【資料4】参照)

【資料4】 第1～4回 高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」実施計画

第1回（7月開催）高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」実施計画

1 目的

- (1) 高校生の大学への関心を高めるとともに、志を持って教員（教育学部）をめざそうとする意欲を高める。
- (2) 後輩に教職に向かう大学での学びについて語ることで、大学生の学習意欲を喚起する。

2 日時 令和3年7月10日（土）12：15～13：15

3 場所 ZOOMにて開催（浜田高校：教室棟の教室 島根大学：教育学部201教室）

4 日程 ※11：15～接続

時間	内容【担当】	進行
12：15～12：20（5分）	浜田高等学校あいさつ	浜田高校
12：20～12：30（10分）	島根大学教育学部あいさつ並びに 講話「教育学部ってどんなところ？」	島根大学教育学部1回生
12：30～12：38（8分）	講話「めざせ！教職」	
12：38～13：05（27分）	大学生活等の紹介 ①1年生による発表 ②3年生による発表 ③3年生による発表	
13：05～13：10（5分）	質疑応答	浜田高校
13：10～13：15（5分）	まとめ	

第2回（8月開催）高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」実施計画

1 目的

- (1) 高校生の大学への関心をさらに高めるとともに、教員（教育学部）をめざそうとする意欲を高め、進路の方向性を見つめる。
- (2) 後輩に教職に向かう大学での学びについて語ることで、大学生の学習意欲を喚起する。

2 日時 令和3年8月21日（土）12：15～13：15

3 場所 ZOOMにて開催（浜田高校：教室棟の教室 島根大学：教育学部201教室）

4 日程 ※11：15～接続

時間	内容【担当】	進行
12：15～（3分）	浜田高等学校あいさつ【校長】	浜田高校
12：18～（20分）	専攻の紹介【教育学部生】 ・1回目「社会科専攻について」 ・2回目「数学科専攻について」	島根大学
12：38～（20分）	講話「教師の仕事とは？～現任教員からのメッセージ～」	
12：58～（22分）	質疑応答・まとめ	浜田高校



第1回 高校生と意見交換する様子



第2回 高校生と意見交換する様子



第3回 教採対策を説明する様子



第4回 高校生と意見交換する様子

第3回（12月開催）高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」実施計画

1 目的

- (1) 高校生の大学への関心を高めるとともに、志を持って教員（教育学部）をめざそうとする意欲を高める。
- (2) 後輩に教職に向かう大学での学びについて語ることで、大学生の学習意欲を喚起する。

2 日時 令和3年10月25日（月）16：00～17：00

3 場所 オンライン（ZOOM）開催
 （浜田高校：3-C教室 島根大学：教育学部棟130多目的研修室Ⅱ）

4 日程 （15：00接続）

時刻（所要時間）	内容【担当】	進行
16：00（3分）	あいさつ	浜田高校 島根大学 浜田高校
16：03（40分）	島根大学（主に教育学部）の紹介 ①「教育学部での学びについて」（動画視聴） ②「大学生活について」（説明） ③「教育学部の学びと1000時間体験学修及び学校教育実習について」（説明） ④「就職支援（教採対策）について」（説明） ⑤「他学部から教職に就く学びについて」（説明）	
16：40（10分）	質疑応答	
16：55（5分）	まとめ・諸連絡	

第4回（1月開催）高大連携事業「教育人材育成プロジェクト」実施計画

1 目的

- (1) 高校生が、大学生と対話を深めることで、大学への関心を高めるとともに、将来教職をめざそうとする意欲を高める。
- (2) 大学生が、高校生に教職に向かう大学での学びについて語ることで、学生自身の学びを深め、キャリアを見つめ直し、教職に就く意欲を高める。

2 日時 令和3年12月11日（土）11：40～14：05

3 会場 島根県立浜田高等学校 会議室

4 日程

11：40 11：45 11：55 12：35 13：05 13：45 13：55 14：05

開 会	交流タイムⅠ (10分)	座談会Ⅰ (20分×2)	昼 食 ・ 休 憩	座談会Ⅱ (20分×2)	交流タイムⅡ (10分)	ま と め ・ 連 絡
--------	-----------------	-----------------	-----------------------	-----------------	-----------------	----------------------------

この活動では、大学生はアドバイザーとして高校生に関わり、生徒たちに大学生活や教職の魅力について語り、高校生が大学生活への見通しをもち、将来教職に就こうとする意欲が高まるように支援した。以下、生徒と学生の感想から本セミナーの成果を示す。

生徒の感想（一部抜粋）

- 教育学部で学ぶことの意味を見出せたような気がします。非常にわかりやすい説明で大学に行きたいと思えました。教職に就くためには、「学び続ける姿勢」が大事だと分かったので、勉強のモチベーションにつながりました。
- 教師の魅力について深く知ることができて、大学進学へのモチベーションが上がりました。
- 教師という職業について深く考えるととても良い機会になりました。将来のためにも日頃から勉強をがんばっていこうと思いました。
- 今回の話を聞いて、教員になる方法、それまでの過程、活動を多く知れて良かったです。
- 3回参加させていただきましたが、今回初めての対面形式で緊張していましたが、交流タイムもあり、気兼ねなく大学生とお話してきたので、とても楽しかったです。進路について細かいことまで聞くことができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

学生の感想（一部抜粋）

- 1年間このような活動に参加することができて非常に嬉しかったです。色々な悩みを持つ高校生とお話をするを通して、過去の自分の比較しながら、微笑ましくなったこともありました。私も過去には、彼らと同様の悩みを持ち、今でも過去のことを思い出

して自分を鼓舞することもあります。今回の活動が、彼らの人生に少しでも影響を与えることができているのであれば良いと思います。

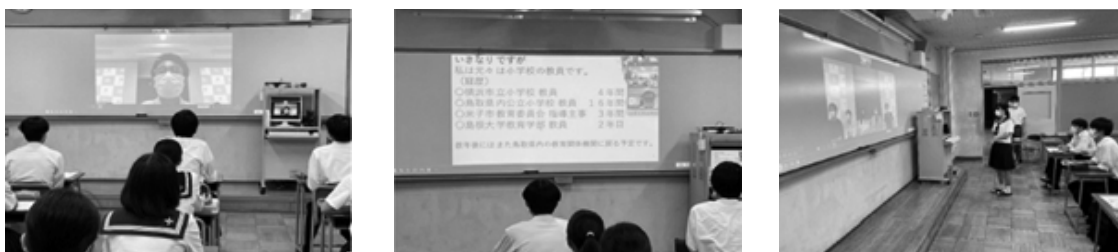
- 来年度もさせていただけるのであれば、ぜひさせていただきたいです。浜田高校だけでなく、島根県内の様々な高校で行い、島根県内の教職志向を高めていきたいと思いました。教職に就きたい人と思いを共有したり、悩みを一緒に考えたりしていきたいです。
- 高校生生の声（疑問等）に触れることで新たな気づきを得ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。高校生も頑張ろうと思っている気持ちが伝わってきて、その子たちのために何か力になりたいと思うようになって良かったです。教師をめざしている仲間として一緒に話すことができ、また、教師として働いている人の声を聞いたことで、教師になるという気持ちを高めることができました。
- 参加できたことを大変光栄に思います。高校生と向き合いながらも、自分と向き合う時間でもありました。何をどのように学ぶのかは自分次第だと気付かせてもらいました。残り少ない学生生活を有意義に過ごすために、今しかできないことをしていきたいです。

3) 鳥取県「未来の教師育成プロジェクト」の学生アドバイザー活動

山陰教師教育コンソーシアムのもと、鳥取県教育委員会と島根大学を核とし、「地元で教員になる」学生の育成をめざす取り組みが令和元年度から始動し、今年度で拠点校となる高等学校が8校（【表5】参照）に拡大し、実施している。

【表5】 令和3年度「未来の教師」育成プロジェクト取り組み状況

令和3年度「未来の教師」育成プロジェクト取組状況		
番号	学校名	主な取組予定（10月現在）
1	鳥取西高	■SSH、SGHにおける探求（総合的な学習の時間）の一環として、研修旅行を実施。 ○開催予定日：令和3年11月30日（火） ○内容：主に県内の研修旅行であるが、企業訪問の一つに島根大学を予定。教育学部を含め他学部を訪問。講和、出身学生との交流を予定。 ※新型コロナウイルス感染拡大により検討中
2	鳥取東高	■次世代教師塾と題し、教職希望のある全学年対象に小中大と連携して実施。 ○第1回：城北小学校職員の講和（6/21 生徒25名参加） ○第2回：中学校教諭の講和（11月頃）
3	八頭高	■教師希望のある中高生を対象に実施。
4	倉吉東高	■各学部による出張講義として実施。（入試企画課） ※新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインで実施（教育学部は吉田が学校に向く） ○開催日：10月21日（木） ○内容：島根大学の教育学部を含めた各学部の紹介等
5	倉吉西高	■倉吉出身の学生と出合わせ、さらに、教職を目指す生徒に地元の教員を出会わせたい。12月頃の実施を検討中。
6	米子東高	■教職希望のある1、2年生対象に実施 ○開催日 令和3年11月16日（火）頃16時～17時 ○内容 講話、学部生と生徒との交流 等
7	米子西高	■教職希望のある2、3年生対象に実施 ※新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン ○開催日 令和3年7月31日（土）9時～11時 ○内容 ①講話 ②質疑 ③学部生と生徒、保護者と大学教員との交流 ※夏季休業中に小学校へ学習ボランティア⇒新型コロナウイルス感染拡大のため中止
8	境高	■講話、大学生との交流等を含め、1、2月頃実施を検討中。 ※夏季休業中に小学校へ学習ボランティア⇒新型コロナウイルス感染拡大のため中止



米子西高等学校との取り組みの様子

この活動では、学生はアドバイザーとして高校生に関わり、生徒たちに大学生活や教職の魅力について語り、高校生が大学生活への見通しをもち、将来教職に就こうとする意欲が高まるよう支援した。以下、学生の感想から本セミナーの成果を示す。

学生の感想（一部抜粋）

- 高校時代にお世話になった学校に対して、ほんの少しばかりの恩返しができるのではないかと感じました。また、自分のこれまでを踏まえて振り返ったり、今後自分が努めなければいけないことは何であるかを見つめ直したりすることができ、良い機会となりました。今後も同じような母校に関わる活動が行われる際は、また参加して何らかの形で役に立ちたいと思いました。
- 高校生一人一人に質問してもらい、それに答える形にしたので、高校生の疑問を解決することができたと思いました。来年度から講師として働く予定なので、今回の高校生とのコミュニケーションを活かすためにはどうすれば良いかを考え、より成長できるようにしたいと思いました。
- 有意義な経験を積むことができました。自分たちの後輩にあたる高校生たちがどんな内容を求めているのか、どのような発表の仕方、雰囲気やスライドの字体も含め、プレゼン全体としてどのようなものにすべきか話し合い、言葉選びや役割分担までこだわって準備しました。当日は、オンラインということもあり、高校生と関わり、相互に話す時間はあまりとれませんでした。質問には丁寧に答えるよう心掛けました。

(4) 基礎体験セミナー等

1) 基礎体験セミナー等の対応と実績

今年度もコロナ対応が継続となり、昨年度の実施方法を踏まえながら学生にとって学びや親睦の機会が確保できるよう対策に努めた。今年度の対応と実績は【表6】のとおりである。内容・時間を必要最小限とし分散開催する等、会場を工夫することで昨年度よりも多くのセミナーを実施することができた。一方で、1年生対象の基礎体験合同説明会や地域理解セミナー、1・2年生対象の基礎体験交流会は、コロナ禍の影響を受け、中止とした。

【表6】 令和3年度基礎体験セミナー等（必修）の対応と実績

対象学年	セミナー名	認定時間	今年度の実績	対応等
1	入門期セミナー	22時間	7時間分実施	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	基礎体験 合同説明会	1時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	地域理解 セミナー	3時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
	スタートアップ セミナー	3時間	実施	—
1・2	基礎体験交流会	2時間	中止	不足時間分は基礎体験活動（選択）で補う。
2・3	基礎体験交流会	2時間	実施	令和2年度中止となった昨年度1・2年生対象基礎体験交流会として2時間で開催
2	充実期セミナー	2時間	実施	—
3	応用期セミナー	3時間	実施	—
4	発展期セミナー	2時間	実施	—

2) 入門期セミナー

入門期セミナー2021実施計画

1 目的

- (1) レクリエーション活動を実施することで、新入生同士のつながり（横のつながり）や上級生とのつながり（縦のつながり）を促すとともに、新入生の心配事・疑問等の不安の共有・解消を図る。
- (2) 1000時間体験学修の基礎体験活動（選択）に係る内容、参加手続き等の説明を実施することで、学生の学修意欲の向上や参加手続きの理解を図る。

2 日時、認定時間

- (1) 1回目（A，Bクラス） 令和3年4月24日（土）9：00～17：00 7時間
- (2) 2回目（C，Dクラス） 令和3年4月25日（日）9：00～17：00 7時間

※ 参加学生・・・活動記録票の提出で時間認定とする

※ 不参加学生・・・動画視聴（研修2・3・5），レポート提出

3 対象，参加人数 1年生130名程度（各回60名程度）

4 会場 大学会館3階 大集会室

5 日程

9：00 9：15 10：25 10：40 12：05 13：05 14：25 14：40 15：45 16：30 17：00

OR・諸連絡	研修1	休憩	研修2	昼食・休憩	研修3	休憩	研修4	研修5	まとめ・諸連絡
--------	-----	----	-----	-------	-----	----	-----	-----	---------

本セミナーは新生を対象に1000時間体験学修について理解し、同級生や上級生アドバイザーとの親睦を深めることを目的として、例年4月中旬の土・日曜日に一泊二日の宿泊型研修として実施していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月実施を前提としながらも従来の宿泊型研修を取り止め、一日開催の日程で2日間に分散して開催した。本セミナーは、基礎体験活動への参加手続きや仲間づくり等という重要な目的となることから、感染防止策を講じた上で実施することとした。また、1年生は4月に履修に関するガイダンスを対面で数回行ったのみであり、全学的にも1年生への手厚い指導を要請されていた。本セミナーはこうした要請にも応えるものとして、昨年度よりも時間数を大幅に増加した7時間とし、内容の充実を図って開催した。

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示したい。



情報交換の様子



レクリエーション活動の様子

教職員の振り返り（一部抜粋）

- 本セミナーにより1年生同士の距離が近づいた。
- レクリエーションにより1年生同士、1年生と上学年が関われる時間があって良かった。
- 上級生アドバイザーがいたので準備が助かった。指名での人選が良く、動きも良かった。
2・3年生の数のバランスも丁度よく、相互にほめ合い学び合っていた。
- 上級生アドバイザーのプレゼンは、持ち時間内に質問タイムを設ける等、バリエーションがあり良かった。

学生の感想（一部抜粋）

- 1000時間体験学修の基礎体験活動についてたくさん知ることができて良かったです。教師になるために、自分に足りない力を身につけることができる活動に取り組みたいと思いました。先輩方に、私が不安に思っていた専攻やアルバイト、サークル活動についても質問でき、とても有意義な時間となりました。
- 同じ班の人や先輩との交流が深められて良かったと思います。こういう場でコミュニケーション力を高めていくことも大事だと感じました。これから実習も始まるし、やがて基礎体験活動にも参加できるようになるので、しっかりと準備をし、教育現場を生で感じ

て、将来の自分がめざす教師像に近づいていきたいです。

- 大学生活や基礎体験活動について意見を交流することで、不安に思うこと、楽しみに思うことそれぞれの考えを共有できてとても良かったです。特に不安に思うことは、一緒に部分も多くあり、自分だけではなかったんだと少し安心感も得ることができました。今日のセミナーで基礎体験活動がより楽しみになりました。
- 先輩方の説明を聞いて、分かりやすかったし話し方も憧れたし、自分もそうなりたいと思いました。この入門期セミナーをとおして、これからここで学んでいく意欲が高まり、自覚もできました。先輩方のようになるために、これからの授業とかに、今の気持ちを忘れず精一杯頑張りたいです。

3) 2・3年生基礎体験交流会

令和3年度 2・3年生基礎体験交流会

1 目的

- (1) 個々の基礎体験活動の実績を振り返り、自己内省を促す。
- (2) 同学年や他学年との基礎体験活動に関する情報交換を通して、多様な学びを共有すると共に、今後の体験活動に対しての意欲を高める。

2 対象 2, 3年生全員 (約270名)

3 日時 令和3年6月23日 (水)

コマ	時間	参加対象G
3	13:00～14:25	Aクラス1・2G, Bクラス1・2G, Cクラス1・2G, Dクラス1・2G
4	14:55～16:20	Aクラス3・4G, Bクラス3・4G, Cクラス3・4G, Dクラス3・4G
5	16:50～18:15	Aクラス5・6G, Bクラス5・6G, Cクラス5・6G, Dクラス5・6G

※ 原則、実践研I所属クラスの回に参加し、他の回を希望または不参加の場合は、支援センターへ相談する。

※ 所属クラスのグループをもとにした2学年合同の特別グループを編成する。

※ 各回16グループ、1グループの学生数は5または6名、座席指定とする。(グループ数は参加学生数によって増減あり)

4 会場 大学会館3階大集会室

5 認定時間 2時間 (交流会85分+アンケート35分=120分)

※ 不参加及び欠席の場合は、2時間分を基礎体験活動(選択)に上乘せする。

6 内容

- (1) 研修1 (20分)
基礎体験活動の実施状況及び注意事項等(説明)

(2) 研修2 (45分)

これまでの基礎体験活動の実施状況や学び等についての情報交換 (フリップトーク)

○自己紹介

○情報交換テーマ

- ①取り組んできた体験活動
- ②思い出の体験活動
- ③身に付いたと思う「10の教師力」
- ④身に付けたい「10の教師力」とこれから

(3) まとめ・振り返り (15分)

本セミナーは、基礎体験活動 (選択) について、同学年だけでなく他学年との交流をとおして振り返り、今後の活動へのより良い見通しをもつことを目的として行っている交流会を、半年延期する形で開催した。例年250名 (2学年分) 近い学生を一堂に会して行っているが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、内容を精選し、時間を短縮することにより、一日3回 (3～5コマ) に分散して開催した。

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

教職員の振り返り (一部抜粋)

- 意義や時間設定が良かった。概ね目標を達成できたと思う。
- 学生スタッフのお陰で、準備や片付けがスムーズであった。
- 時期的なものか、学生同士でよく話し合っていた。



基礎体験交流会の様子



基礎体験活動交流会の様子

学生の感想（一部抜粋）

- 自分の班の2回生が、学校への支援や学習支援の活動を多く行って、刺激をもらいました。コロナが流行っていて、活動が思うように出来なかった時期があることを言い訳にせず、積極的に1000時間体験に取り組んでいてすごいと思いました。他の人の1000時間体験での取り組みや、そこから感じたこと、体験したことを聞くことで、自分にはまだこれが足りないのではないか、と思うことや、自分はこれはもう十分なのではないか、ということ客観的に捉える機会になりました。
- 今回のセミナーで、みんなそれぞれ様々な興味深い活動に参加していて、全ての活動が自分を成長させているものとなっており、やはり1000時間体験は教師になる、ならぬ関係なく、自分を成長させる場としてとても大切な活動であることが分かりました。
- グループでの活動の情報交換では、自分が身につけることができた教師力の把握と身につけたい教師力の把握をしたことで、今後の活動で何を意識すると充実した時間でできるか把握することができました。こういった活動があると言うのも3回生の方から聞くことができたので、自分の求める活動の把握もでき、興味深い内容もあったので楽しかったです。
- フリップに書いてそれについて話していく方式で、自然と会話が生まれ、沈黙がなかったことはとても良かったと思いました。コロナで中々思うように活動ができない中、松江だけでなく、出雲や米子に足を運び、体験に参加している姿を見て、自分ももっと積極的に活動しなくてはいけないと思いました。情報交換だけでなく、周りの人の頑張りを覚えることで、やる気が湧いてくる人は私だけではないと思います。この基礎体験交流会は、そういう効果もあると思いました。

(5) だんだん塾講演会

コロナ禍に鑑み、昨年度同様に、センター演習「だんだん塾特別講義（動画）」の企画と連動した講演会として実施した。講師は例年と同様に教育現場や教育行政、企業等の外部機関から優れた実践者を招聘した。【表7】のとおり、講演内容も教育現場に直接関わる実践的で多角的な内容となるよう企画・実施した。コロナ対応として、参加人数は30人を上限とし、さらに第4回以降はオンライン、オンデマンドでの開催としたが、毎回ほぼ定員の2分の1を上回る参加者人数であった。（下表の第4回以降の「参加人数」*印は、オンデマンド参加登録者数）

【表7】 だんだん塾講演会の開催実績

回数	日時	講演者	講演テーマ	参加人数
第1回	7月7日(水) 14:55~16:35	鳥取県教育委員会 西部教育局指導主事 三村 直樹 氏	～未来の先生のために～ 学級づくり	12名
第2回	8月16日(月) 14:55~16:50	鳥根県立青少年の家 サン・レイク 社会教育主事 濱野 健一 氏	学び合い支え合う集団づくり ～人間関係づくりの必要性を 理論や実践から学ぶ～	16名
第3回	8月23日(月) 14:55~16:35	米子市立啓成小学校教諭 永原 昇悟 氏	学校現場の実務と基礎体験 活動のつながり	14名
第4回	1月19日(水) 14:55~16:35	出雲市立斐川西中学校 養護教諭 高見 典子 氏	「保健室から見えてくる学 校の今」	*30名
第5回	2月16日(水) 13:00~14:40	鳥取県教育センターGIGAスクール 推進課 指導主事 濱家 雄 氏	GIGAスクール構想やICT 活用の具体的内容を学ぶ	*18名
第6回	2月21日(月) 13:25~15:00	鳥根トヨタグループ人財開発室課長 村上 亮介 氏	仕事ってなんのためにする の？	25名
第7回	3月2日(水) 13:35~15:10	Office Sou代表 森山 和子 氏	自分を変える ～接遇スキ ルを強い味方に！～	17名



第3回の様子(対面)



第7回の様子(オンライン:講演後の質疑)

2. 学内資格認定制度

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサービス・サポーター」の3つの学内資格を設定している。今年度の認定者は延べ20名であった。(【表8】参照)

【表8】 学内資格認定者数

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポーター	10名	2年生 2名 3年生 8名
学校教育サポーター	4名	3年生 4名
コミュニティサービス・サポーター	6名	2年生 1名 3年生 8名

3. 各受け入れ先との連携

今年度も昨年同様、コロナ禍対策のため、以下の附属教育支援センター長通知文（一部抜粋）にあるとおり、例年行っている連絡会議、説明会を中止とした。（【資料5・6】参照）

なお、令和4年度の第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会についても今年度同様に中止と決定している。

○第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会、第2回基礎体験活動連絡会議

【資料5】 附属教育支援センター長通知文（一部抜粋） （令和3年3月26日付け）
令和3年度 第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会について

例年、4月中旬に基礎体験活動について説明していただきました連絡会議及び各事業所から1年生に対しPRいただいていた合同説明会につきまして、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、中止とさせていただきます。

なお、基礎体験活動の実施につきましては、下記のとおりですのでよろしくお願いいたします。

記

【基礎体験活動の実施について】

- *登録につきましては、従来通り申込みを受け付けていますので、島根大学教育学部附属教育支援センターホームページをご覧ください。
- *新1年生につきましては、開始時期を4月下旬に予定しています。
- *新1年生への各活動説明は4月中旬に大学職員が行います。説明に併せ、チラシを配布する事も可能ですので、希望される事業所はA4（1枚 両面可）で作成いただき、140部付をお願いいたします。

【資料6】 （令和4年1月28日付け）
令和3年度 第2回基礎体験活動連絡会議等について（連絡）

例年、2月中旬に開催の基礎体験活動連絡会議につきまして、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、中止とさせていただきます。

今年度の基礎体験活動について、皆様のご意見やご要望を伺い来年度の取り組みに活かして参りたいと思います。ご多忙の折とは存じますが、添付のURLまたは二次元コードからFORMSに入ってください、アンケート回答票に記入の上、令和4年2月11日（金）までに送信いただきますようご協力お願いいたします。

また、今年度及び来年度の基礎体験活動につきましては、別紙1（裏面）のとおり報告いたします。

～別紙記載内容（抜粋）～

【令和3年度】

- ・コロナ対応策を講じながら、令和3年4月1日（木）より本年度の活動を開始しました。なお、宿泊を伴う活動は中止としています。
- ・各活動に係る大学内での事前指導において、別紙2「基礎体験活動参加にあたっての新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」（改訂）をもとにした指導を行い、学生が適

切な対応がとれるよう徹底を図っています。

- ・基礎体験活動の一環として「教育支援センター演習（動画視聴他）」を今年度も開設し、対面でなくオンラインでも取り組めるようにしました。
- ・募集団体及び活動数・学生参加数について（令和4年1月18日現在）

〈 省 略 〉

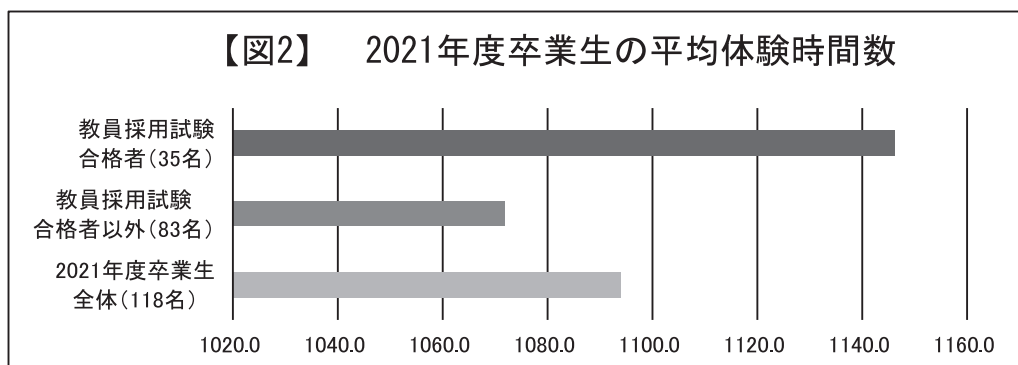
【令和4年度】

- ・基礎体験活動（宿泊を伴うものを除く）の登録は従来どおり受け付ける予定です。4月当初からの活動を希望される場合は、今年度3月中旬を目処に募集用紙を提出してください。
- ・令和4年度の第1回基礎体験活動連絡会議及び合同説明会は、4月中旬ごろ開催する予定です。3月中旬ごろにご案内を送付する予定としています。なお、コロナ感染症の状況によってはこの限りではない旨ご了承願います。
- ・宿泊を伴う活動の登録は、新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染状況を考慮し、現時点において、再開は令和4年4月をめざして準備したいと考えています。再開した場合も、各事業所あたり月1回程度での実施計画をお願いします。
- ・基礎体験活動の実施については、島根大学のコロナ対応の行動指針によって決まります。指針は、島根大学HPトップページ「新型コロナウイルス感染症対応に関する重要なお知らせ」で確認できます。また、基礎体験活動の実施については、教育支援センターHPに掲載します。なお、活動の延期または中止となった際は、教育支援センターより別途通知いたします。

Ⅲ 成果と今後の課題

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍への予防対策を講じた上で、「基礎体験活動をどれだけ実施することができるか」や「学生の教職離れに対応し、さらに教職志向性を高めるものへどのように変えていくか」に主眼を置き、新型コロナウイルス対応で急な予定変更を余儀なくされる中、取り組みを進めた。その途中、コロナ禍の再拡大により、停止、あるいは中止となる活動があり、学生は例年のように活動に取り組むことができなかつた面もあるが、例年よりも増えた新規申込みの活動に参加することや、「センター演習」をはじめとした学内や自宅で体験可能な活動に頻繁に参加することにより、学生は苦心しながらも1000時間体験学修でねら

【図2】 2021年度卒業生の平均体験時間数



う学びを得ることができたと推察する。また、【図2】に示した教員採用試験合格者の平均体験時間数を見ると、基礎体験活動が教師力の育成にも影響していることが窺える。しかし、今年度卒業生の平均体験時間数が1094時間程度となり、これは例年と比較して100時間程度減少していることから、既述のとおりコロナ禍の中において、学生は取り組める活動や期間、その方法・手段を模索しながら、学修を進め、体験時間数を積み上げていったことが想像できる。

IV おわりに

今後の取り組みに生かすために、次のように「新型コロナウイルス感染拡大状況下の対応」と「教職志向性向上への取り組み」の成果と今後の課題を挙げる。

1. コロナ禍への対応

(1) 成果

- コロナ禍において、学内や自宅で参加可能な基礎体験活動（センター演習等）の内容を充実させ、公開することができた。そして、その活動を学生が頻繁に活用した。
- 学生が基礎体験活動を進める上で必要な情報等を得ることとなる入門期セミナー等の各必修セミナーを、コロナ禍への予防対策（内容の精選や分散開催等）を講じながら、計画的に開催することができた。
- 「基礎体験活動参加にあたっての新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」を学生の実態や学内の方針に応じて随時修正・提示を行い、基礎体験活動受入先との連絡調整を迅速且つ密に行うことができた。オンラインでの実施や活動時間の短縮といった工夫を施し、「必修セミナー」においてもソーシャルディスタンスが保てる会場の確保等の協力を得ることができたため、コロナ禍の中でも安全に取り組める活動を学生に提供することができた（昨年度よりも募集活動数は73件増加した）。

(2) 今後の課題

- コロナ禍の収束が見通せないため、学内で参加できる基礎体験活動（センター演習等）をさらに充実させ、専攻別体験・演習（上限350時間）においてもこれまで以上に学生が活動に取り組めるよう各専攻と連携を行なっていく。
- 今年度卒業生は3年時からコロナ禍となり、例年よりも平均体験時間が少なくなったが、来年度卒業生は2年時から、再来年度卒業生は1年時から、そして、来年度新入生も1年時からコロナ禍での基礎体験活動となるため、平均体験時間がさらに少なくなることが予想される。従って、制約される中で学生が教師力を身につけられるように、コロナ禍においても意義ある活動内容や学びの場を保障する観点から、学内外の活動を問わず効果的な活動の在り方について、今後より一層模索していく必要がある。

2. 「教職志向性向上」への取り組み

(1) 成果

- 例年、基礎体験活動の参加種別の割合として少なかった「学校現場における活動」の割合を、昨年度に引き続き増加させ、それらの活動を学生に提供することができた。
- 新型コロナウイルス対応として試みた「センター演習（だんだん塾特別講義）」の内容に、学校教育の理解や教員採用試験対策に特化した内容を加え、学生に提供することができた。

○「センター演習（学校現場経験者の先生と語り合おう）」については、担当する教員数を4名から11名に増やし、教職の魅力ややりがい等、教職に対してポジティブで前向きな情報を学生に発信することや、学生の教職に向けての不安や疑問に対して応え、その解消を図ることができた。

(2) 今後の課題

- 教育支援センターでの取り組みを、より多くの本センター以外の教職員と情報を共有し、学部全体でねらいを意識して、学内の講義と連動・連携した取り組みにしていく。
- 今後も本課題解決に向けて、学生に基礎体験活動の内容を吟味して提供するとともに、山陰教師教育コンソーシアム事業である島根県「教育人材育成プロジェクト」や鳥取県「未来の教師育成プロジェクト」とも連動させながら、外部機関（特に学校現場）と連携することで、より充実した活動内容を提供していく。

以下「山陰教員養成プロジェクトマップ2022」と「山陰教員養成プロジェクト展開図2022（イメージ）」は、本課題解決に向けたポンチ絵である。引き続き、学生の教師力育成と教員就職率向上に向けて尽力したい。

